

(別添)

## 世界の人びとのための J I C A 基金・業務完了報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	スリランカ国 就学困難児童事業
(2) 実施団体名	オヴァ・ママの会
(3) 実施期間	平成21年11月1日～平成22年3月18日
(4) 実施国	スリランカ民主社会主義国
(5) 活動地域	マータラ県ケカナドゥラ村とその周辺集落
(6) 活動概要	<p>活動の背景：</p> <p>スリランカはグローバル経済とインフレの下での貧困の恒常化と貧富格差の拡大が進行しており、特に農村地域の疲弊が顕在化してきております。そのような中で、基本的に教育費は無料であっても家庭の事情で就学不可能な子供たちが増加しております。また、そのような子供たちに対して、集落の人々は就学を促す有効な手段を持ち得ないできています。</p> <p>活動の目標：</p> <p>この事業では、就学不可能な子供たちに就学の機会を提供し、また集落として就学を支える環境と機運を整えることを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下の事業を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 就学不可能な子供たちへの奨学金の提供。</li><li>(2) 現地に設置した基金管理委員会による基金の管理、必要な児童の調査。</li><li>(3) オバ・ママ チルドレンヴィレッジ(養護施設)の図書室の開放と、児童の学習の場として提供。</li></ul>

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

【実施内容】文房具の購入、送付、配付

ノート(800冊)、鉛筆(720本)、クレヨン(320箱)、  
画用紙(2,000枚)を航空便で送付。基金管理委員会が保管し、必要  
児童に配付。

【実施内容】基金管理委員会の設置

当会の要請に応じて基金を管理し、就学困難児童に提供するための組織  
(規約・メンバー)作り。

【実施内容】就学困難児童の調査・リスト作成

基金管理委員会が就学困難児童の所在を調査し、奨学金の提供に備える。

【実施内容】奨学基金等の送金

基金管理委員会設置、就学困難児童リスト作成を受けて、奨学基金及び  
調査員賃金を送金。

【実施内容5】当会スタッフの派遣

平成22年3月8日～15日の間、当会スタッフ3名を派遣。業務の点  
検、学校訪問を実施。

### (2) 実施成果

【実施内容】文房具の購入、送付、配付：目下、文房具の約1/2をケカナドゥラ村の  
複数の小学校に配付し、小学校から児童に渡すよう依頼しています。教師の方  
々は好意的でした。通学していない児童については、基金管理委員会が直接  
渡すこととしています。

【実施内容】基金管理委員会の設置：オヴァ・ママの会のカウンターパートである「オ  
バママ アソシエーション スリランカ」が中心となって組織し、村民も参  
加し、責任と目的意識を掘った委員会を設置することができました。

【実施内容】就学困難児童の調査・リスト作成：基金管理委員会が委託した調査員3名  
が、小・中学校、役場で基礎的資料を入手し、個別に家庭を訪問してリスト  
を作成しました。今後の基金運営にとって、実効的な資料となります。

【実施内容】奨学基金等の送金；銀行を通じた送金で速やかに行われました。ただし、  
送金手数料が高く、送金方法の工夫が必要であることを痛感させられました。

【実施内容】当会スタッフの派遣：スタッフは書類及び未配付の文房具の管理状況の点  
検を行い、また近隣の小学校を訪問し、教師の方々と面談しました。小学校  
は今回の文房具の配付と奨学金制度の設置を歓迎してくれました。さらに、  
奨学金の運用について、現地での通学服や靴の現物支給などの柔軟な対応を  
希望するなどの意見がありました。

( 3 ) 得られた教訓など

当会及び当会のカウンターパートである「オバママ アソシエーション スリランカ」にとってこの業務は、就学困難児童の支援にとどまらず、養護施設「オバママ チルドレンヴィレッジ」と周辺村民との融和、あるいは学校との連携を図ることを目指すものでもありました。その点では、今年に入って「ダーナ」(日本でいう「お布施」のようなもので、人びとが食事などを養護施設に持ってきてくれること)が増加していること、学校での養護施設の児童の扱いが改善されてきたことに見られるように、業務の成果は確実にあがっています。

このような小さな動向ですが、スリランカの課題はスリランカの人々が主体的に取り組むというスタンスの下に、養護施設「オバママ チルドレンヴィレッジ」が周辺の村人によって支えられる第一歩となれば、と願っております。

( 4 ) 今後の活動・フォローアップの方針

基金管理委員会が「オバママ アソシエーション スリランカ」が中心となって組織化されたことは、大きな成果でした。この委員会を核に、さらに村落の生活改善に取り組むことが期待されます。そのためには、カウンターパートとしての当会が、恒常的に関わっていくことが不可欠です。具体的には、基金管理委員会に当会スタッフが加わること、定期的(年2回)に基金の執行状況を当会に報告することを求めています。また、当会のスタディツアーの折などに基金管理委員会のメンバーや学校の教師の方々との交流を企画していきます。

3 . その他 (エピソード・感想・写真など)

( 1 ) 活動中のエピソード・感想など

平成22年3月に当会スタッフ3名が現地を訪れた際、養護施設「オバママ チルドレンヴィレッジ」の多目的ホールで、「文化祭」が開催されました。スリランカ政府の現・文化遺産担当大臣、基金管理委員会のメンバーらとともに、多くの村人が参加し、盛大に行われました。養護施設「オバママ チルドレンヴィレッジ」では、村人の要請に応じて施設内に幼稚園を併設していますが、この多目的ホールも様々な催し、住民検診などに使用されています。「オバママ アソシエーション スリランカ」は様々な機会を捉えて、村人と養護施設の間の垣根を低くすることに努力しています。上記の「文化祭」もその一環として実施されました。養護施設「オバママ チルドレンヴィレッジ」の児童も、歌、踊り、器楽演奏にと大活躍し、村人も惜しみない拍手を送っていました。就学困難児事業の前途を予感させる場面でもありました。

## 2) 活動の写真

JICA からの援助金で、文房具を段ボールに詰めて送りました。

早速、オヴァ・ママの会赤羽事務局長が現地の OMC の子どもたちにクレヨン、絵具、筆、画用紙などを手渡しました。(写真 , )

また、地域の学校の子どもたちには、現地 OMA 代表ラタナサーラ氏より文房具一式を配布しました。



プレゼントされたクレヨンで、いつになく真剣に絵を描く子どもたち。

2010年5月3日～5月9日まで名古屋市博物館で「スリランカ子供たちの絵」として、青焔展で展示しました。



村の子どもたちの中で、奨学金を必要とする児童の調査員として働いてくれました。

(インディカさん左とナディさん右)

## ケカナドウラ村の学校

現在 児童 57 名 先生 11 名

教室は、高学年用の壁のない大きなと教室低学年用小教室 3 予備室 1



始業の前に、仏陀に捧げる聖水と献花を先生方に清めてもらい(写真上)学校の中にある祠に向かって、お祈りをします。(写真下)







軽い体操の後、1 時間目 高学年は、男女混合のサッカーでした。デコボコだらけの校庭を裸足で駆け回る子どもたち（男女共）が沢山いました。



2 時間目は？近所のおばさんがパケツに入ったヌードルとバナナを以ってやってきました。朝食事をしてこない子供もいるので、10 時ごろが給食の時間です。楽しみ！写真左は、4 , 5 , 6 , 7 年生の複式教室です。



ゲム又学校の先生と記念撮影。  
「サッカーボールも古くて空気が抜けるので、ぼこぼこで重いし、靴がない子が多いので、靴がほしい。」